

和歌山県串本町で撮影されたクエとタマカイの交雑個体の記録

大西 遼¹・中村潤平²¹ 〒 649-3514 和歌山県東牟婁郡串本町有田 1157 串本海中公園センター² 〒 892-0814 鹿児島市本港新町 3-1 いおワールドかごしま水族館

はじめに

人工的に生産されたハタ科魚類 *Epinephelidae* のクエ *Epinephelus bruneus* Bloch, 1793 とタマカイ *E. lanceolatus* (Bloch, 1790) の交雑個体は、成長が速く市場価値の高い養殖対象種として日本国内で養殖が行われている (村田ほか, 2017; 升間, 2018; Masuma and Aoki, 2024; Aoki et al., 2025)。一方で、クエとタマカイの交雑個体は宮崎県と鹿児島県の自然海域から確認されており、大型の高次捕食者であることから在来生態系への影響が懸念されている (橋本ほか, 2024)。

2020年6月から2025年11月にかけて和歌山県串本町において、クエとタマカイの交雑個体が継続的に観察された。本個体は橋本ほか (2024) が宮崎県と鹿児島県から報告したものと同様に、人工的に生産された交雑個体であると考えられるため、自然海域におけるハタ科魚類の交雑個体の出現記録の蓄積のためここに報告する。

材料と方法

クエとタマカイの交雑個体の観察は、2020年6月から2025年11月にかけて和歌山県串本町の串本海中公園センターの海中展望塔 (Fig. 1) にて行った。なお、同センターの海中展望塔は海岸から約140 m 沖合にあり、塔内には40個の観察窓が設置されており、水深約5-6 mの海中景観を360度観察することができる。観察は、海況不良などによる海中展望塔の閉鎖日を除き、原則として毎日行った。観察時間は8時から9時半頃、ま

たは16時半から17時頃に行った。観察時にクエとタマカイの交雑個体と思われる個体が確認された場合は、デジタルカメラまたはスマートフォンカメラで写真撮影(必要に応じて動画撮影)を行った。また、海中展望塔周辺での潜水水中に観察された場合も撮影を行った。

結果と考察

クエとタマカイの交雑個体は、2020年6月10日と24日、2021年6月4日、9月26日、10月6日、2023年4月24日、2025年8月30日、11月26日に観察・撮影された (Fig. 2)。このうち、2023年4月24日に観察された個体は、海中展望塔から西側に約40 m (水深約6-7 m) の地点で撮影された。

撮影された個体 (Fig. 2) は、背鰭棘数が11であること (Fig. 2B, C, E)、腹鰭起部が胸鰭基底部の直下に位置すること (Fig. 2B)、体高が中庸であること、および尾鰭が円形であることなどの特徴により中村・本村 (2022) が示したアカハタ属 *Epinephelus* と判断した。また、体側に不規則な幅広い横帯があり、前方ほど傾斜すること、および体に暗色斑点がないことが瀬能 (2013) と Hoshino et al. (2024) の示したクエ *E. bruneus* の特徴と一致した。一方で、背鰭棘数が低く、前部で高くないこと、体側に淡色斑が不規則に散在することが Chan et al. (2011) と瀬能 (2013) の示したタマカイ *E. lanceolatus* の特徴とも一致したことから、両種の中間的な形態の特徴を併せもっていた。さ

Onishi, R. and J. Nakamura. 2026. Photographic record of a hybrid grouper *Epinephelus bruneus* × *E. lanceolatus* from Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 52: 223-225.

✉ RO: Kushimoto Marine Park Center, 1157, Arita, Kushimoto-cho, Higashimuro-gun, Wakayama 649-3514, Japan (e-mail: onishi@kushimoto.co.jp).

Received: 19 March 2026; published online: 21 March 2026; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-056.pdf



Fig. 1. Underwater observatory tower at Kushimoto Marine Park Center.

らに、頭部と体の地色、および各鰭が黄褐色から黒褐色であること、体側、背鰭、および尾鰭に淡色斑が不規則に散在すること、体側に3本の幅広い横帯があり、前方ほど傾斜すること、および背鰭軟条部と尾鰭後縁に黄褐色の縁取りがあることなどが升間(2018)と橋本ほか(2024)が示したクエとタマカイの交雑個体の色彩と一致したため、本交雑個体であると判断した。なお、本研究において継続的に観察・撮影された個体は、体側の横帯や淡色斑の位置および形状がそれぞれ一致していたことから、同一個体であると考えられた。また2020年6月の本個体の全長は、目測で約50–60 cmであると推定されたが、2025年11月時点では約80–100 cmであると推定された。

「はじめに」の項で述べたとおり、クエとタマカイの交雑個体は、日本国内で養殖が行われている(升間, 2018; 橋本ほか, 2024)。また、ハタ科魚類の自然海域での種間交雑は極めて稀であることが知られており(Randall and Justine, 2008; 中村ほか, 2018)、これまでにクエやタマカイを親種とする自然交雑の事例は報告されていない(橋本ほか, 2024)。そのため、宮崎県と鹿児島県の自然海域で確認されたクエとタマカイの交雑個体は、人工的に生産された個体が逸出した可能性が高いと考えられている(橋本ほか, 2024)。これらを踏まえると、和歌山県串本町で確認された個体についても、人工的に生産された交雑個体であると考えられ、種苗生産された個体が自然海域に逸出した可能性が高いと推察される。さらに、クエとタマカイの交雑個体は、養殖管理下におい

て和歌山県田辺湾の低水温期でも生存および成長が可能であることが報告されており(升間, 2018)、本研究において同一個体が複数年にわたり観察されたことから、串本町周辺海域においても越冬および成長していると考えられる。

近年、鹿児島湾ではクエとタマカイの交雑個体が多数確認・水揚げされており、大型の高次捕食者であることから、在来のハタ科魚類を含む生態的地位に近い高次捕食者との生息環境や餌資源をめぐる競合、ならびに在来生物への捕食圧などによる生態系への影響が懸念されている(橋本ほか, 2024)。和歌山県沿岸での確認事例は現時点で本個体のみであるが、2020年から2025年にかけて継続的に出現していることや、全長約80–100 cmの大型個体となっていることなどから橋本ほか(2024)が指摘するように、在来生態系への影響が危惧される。今後は本個体の捕獲を視野に入れ、出現動向や生態系への影響について引き続き注視していく必要がある。

謝 辞

串本海中公園センターの皆さまには観察と撮影にご協力いただいた。この場を借りて厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Aoki, R., T. Matsumasa, T. Kumada, N. Jin and S. Masuma. 2025. Hatchability and growth performance of F1, F2, and backcross progenies of *Epinephelus bruneus* and *Epinephelus lanceolatus*. *Aquaculture International*, 33: 291.
- Chan, C.-M., S. T. Fennessy, W.-C. Ng and D. A. Pollard. 2011. *Epinephelus lanceolatus*, pp. 168–170. In: Craig, M. T., Y. J. Sadovy de Mitcheson and P. C. Heemstra (eds.) *Groupers of the world. A field and market guide*. NISC, Grahamstown.
- 橋本慎太郎・中村潤平・本村浩之. 2024. 九州南部から琉球列島にかけて確認されたハタ科魚類の交雑個体(クエ×タマカイとアカマダラハタ×タマカイ)の記録. *日本生物地理学会会報*, 79: 9–18.
- Hoshino, K., H. Senou and Q. V. Nguyễn. 2024. Taxonomic status of the commercially important grouper, *Epinephelus bruneus* and *E. moara* (Osteichthys: Perciformes: Epinephelidae), with the redescription of *E. bruneus* and the description of a new species. *Species Diversity*, 29: 389–407.
- 升間主計. 2018. 新養殖魚クエタマの特性と課題. *アクアネット*, 21 (8): 52–56.
- Masuma, S. and R. Aoki. 2024. Maturation in a hybrid grouper, Kue-Tama, a cross between female longtooth grouper, *Epinephelus bruneus*, and male giant grouper, *E. lanceolatus*. *Aquaculture International*, 32: 3481–3498.

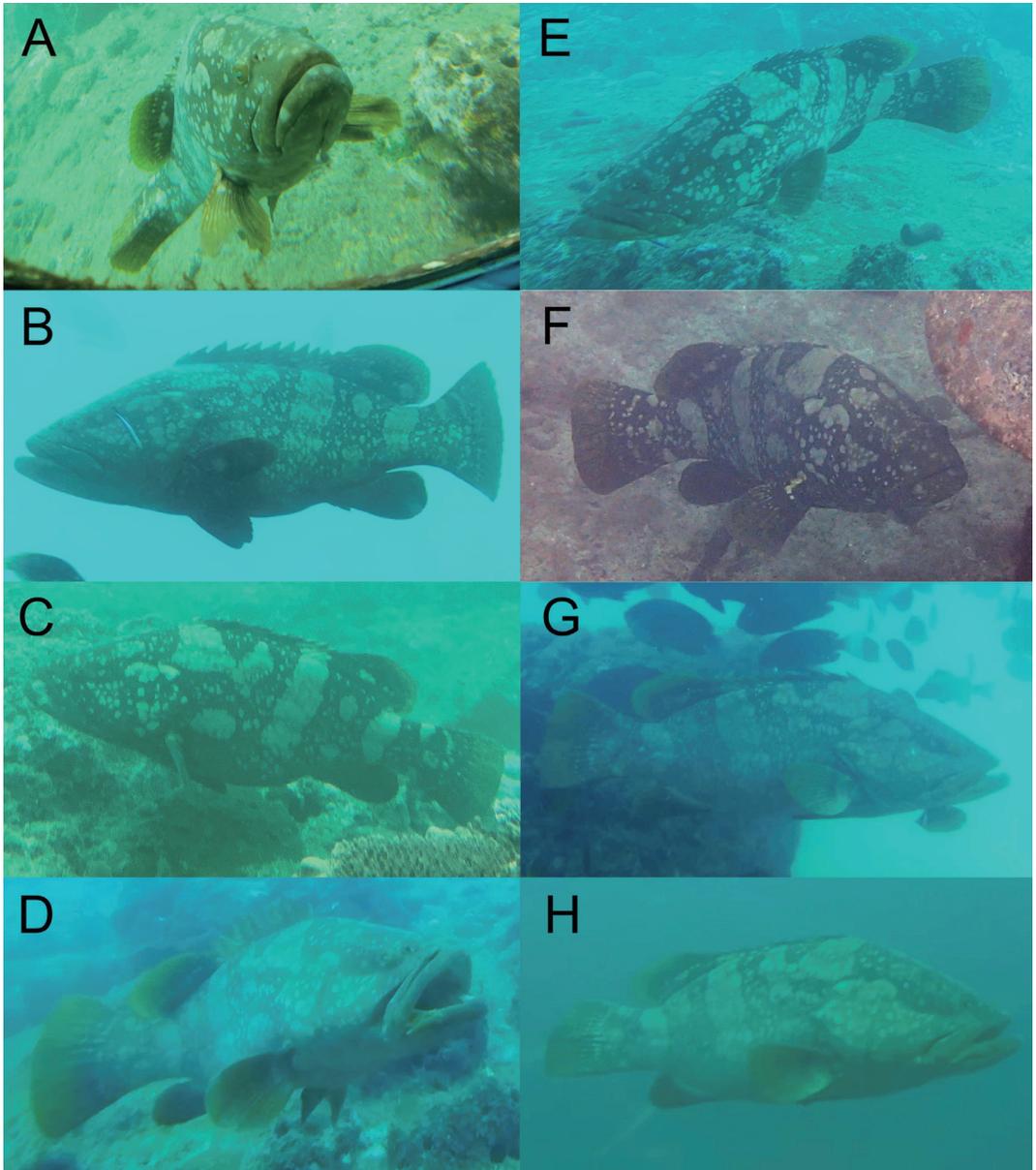


Fig. 2. Photographs of hybrid grouper *Epinephelus bruneus* × *E. lanceolatus* from Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan. A: taken on 10 Jun. 2020; B: taken on 24 Jun. 2020; C: taken on 4 Jun. 2021; D: taken on 26 Sep. 2021; E: taken on 6 Oct. 2021; F: taken on 24 Apr. 2023; G: taken on 30 Aug. 2025; H: taken on 26 Nov. 2025.

村田 修・板倉壯太・山本真司・服部巨宏・倉田道雄・太田博巳・升間主計. 2017. クエ *Epinephelus bruneus* × タマカイ *E. lanceolatus* の種間交雑と交雑仔稚魚の成長. 水産増殖, 65: 93–95.

中村潤平・本村浩之. 2022. ハタ科 Serranidae とされていた日本産各種の帰属, および高次分類群に適用する標準和名の検討. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 19: 26–43.

中村潤平・高久 至・畑 晴陵・本村浩之. 2018. 屋久島で撮影されたイヤゴハタとカケハシハタの交雑個体. Nature of Kagoshima, 45: 79–81.

Randall, J. E. and J.-L. Justine. 2008. *Cephalopholis aurantia* × *C. spiloparaea*, a hybrid serranid fish from New Caledonia. The Raffles Bulletin of Zoology, 56: 157–159.

瀬能 宏. 2013. ハタ科, pp. 757–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.